

おもひころ困語 ㊦

よんでみよう おぼえてみよう

このページは、直接入力はできません。そのまで見えるか田記として使ってください!!

「ほご」は、五・七・五のひび、みじか詩のちいさなものです。松尾芭蕉（まじお ぼんさう）や、小林一茶（こばやちや）など、なつかしい、あつたつとくもあつた。じいじや、一茶の句をじやうかごまつ。わらはやわらひたれご。

雪^{ゆき}どけて村^{むら}いらいばいの子^こどもかな

小林^{こばやし} 一茶^{いちぢや}

雀^{すずめ}の子^こをいけいけお馬^{うま}が通^{とほ}る

われと来^きて遊^{あそ}べや親^{おや}のな^い雀^{すずめ}

やせ蛙^{かえる}負^まけるな一茶^{いちぢや}これに^あり

やれ打^うつな蠅^{はえ}が手^てをす^り足^{あし}を^する

むまそうな(う)まそうな(雪^{ゆき}が)ふ(は)り(は)り(ふ)う(わ)り(ふ)わり(かな

これがま^あつひの(う)の(栖^すか^か雪^{ゆき}五^ご尺^{じやく})

めで^たさも中^{ちゆう}へ^くら(る)なり^らお^らが春^は